

第3章 北上市の人口の将来推計と分析

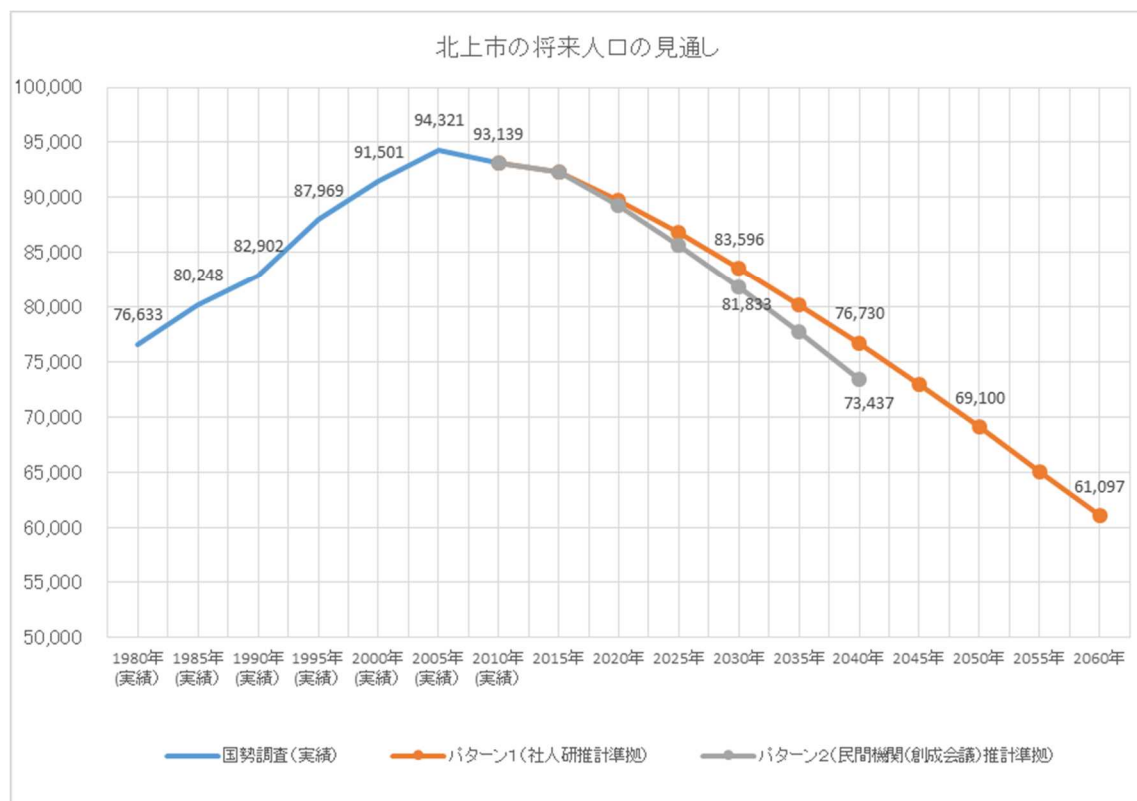
①将来人口の推移

国から提示された推計方法に基づく、将来人口の推移は以下のとおりです。

パターン1（社人研推計準拠）の推計は、人口の移動率が縮減すると仮定しているのに対し、パターン2（日本創成会議推計準拠）の推計では、移動率が平成22（2010）年から平成27（2015）年までと概ね水準で推移すると仮定しているため、人口減少が一層進む見通しとなっています。

＜国から提示された推計方法＞

パターン1	● 社人研推計準拠（将来の移動率が縮小すると仮定。）
パターン2	● 日本創成会議推計準拠（将来の移動率が、現状と同水準で推移すると仮定。出生・死亡についてはパターン1と同様。）



②人口の減少段階

人口減少においては、「第１段階：老年人口の増加（総人口の減少）」、「第２段階：老年人口の維持・微減」、「第３段階：老年人口の減少」の３つの段階があります。

北上市は現在「第１段階」に該当しますが、2045年には「第２段階」に入ると見込まれています。

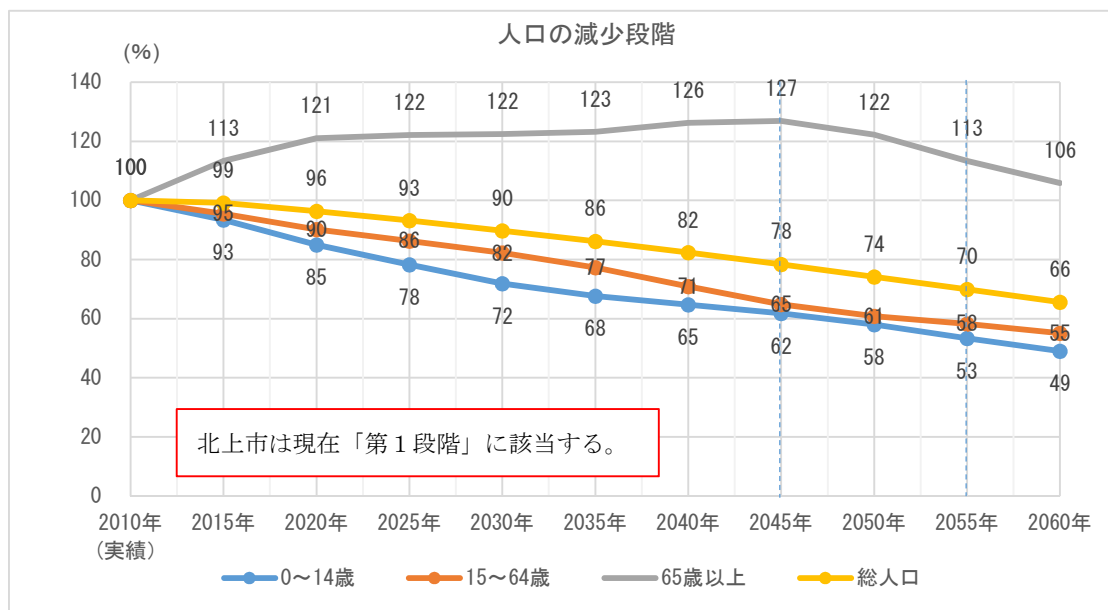


表 年齢３区分別の将来人口の推移

	2010年 (実績)	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	13,550	12,663	11,509	10,605	9,733	9,166	8,766	8,373	7,858	7,226	6,640
15～64歳	58,682	56,005	52,941	50,659	48,270	45,331	41,578	38,067	35,697	34,200	32,323
65歳以上	20,907	23,691	25,301	25,523	25,593	25,746	26,386	26,518	25,545	23,696	22,135
総人口	93,139	92,359	89,751	86,787	83,596	80,244	76,730	72,957	69,100	65,122	61,097
総人口増減 (5年前比)	—	(780)	(2,608)	(2,964)	(3,191)	(3,353)	(3,513)	(3,774)	(3,857)	(3,977)	(4,025)
総人口増減 (2010年比)	—	(780)	(3,388)	(6,352)	(9,543)	(12,895)	(16,409)	(20,182)	(24,039)	(28,017)	(32,042)

③人口推計のシミュレーション

北上市の将来人口における自然増減及び社会増減の影響度を分析するため、パターン1（社人研推計準拠）のデータを基本として、合計特殊出生率が上昇した場合や人口移動が均衡した場合のシミュレーションを行いました。

北上市では、自然増減の影響度が「3（影響度 105～110%）」、社会増減の影響度が「2（影響度 100～110%）」となっており、出生率の上昇につながる施策及び人口の社会増をもたらす施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑えること、さらには歯止めをかける上で効果的であると考えられます。

＜国から提示された推計方法＞

パターン1	● 社人研推計準拠（将来の移動率が縮小すると仮定。）
シミュレーション1	● 合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1まで上昇したとする場合）
シミュレーション2	● シミュレーション1に加え、人口移動が均衡した場合（転入・転出が同数となり、移動がゼロとなった場合）

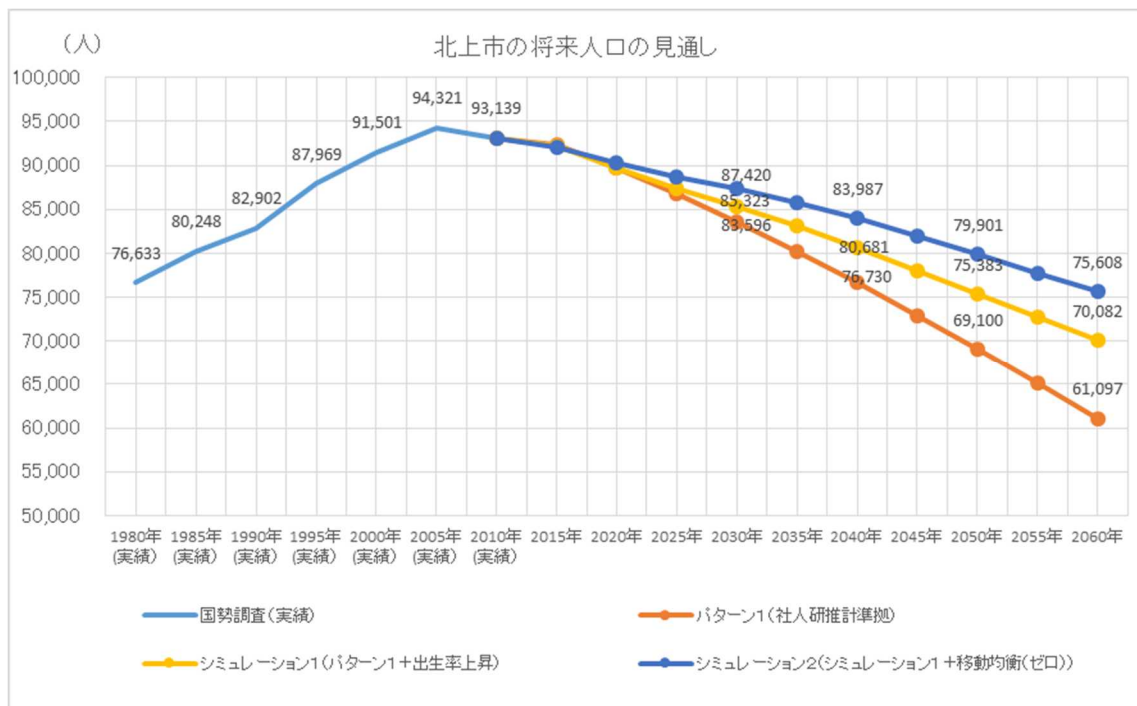


表 自然増減、社会増減の影響度

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1の2040年推計人口=80,681(人) パターン1の2040年推計人口=76,730(人) ⇒80,681(人) / 76,730(人) =105.1%	3
社会増減の影響度	シミュレーション2の2040年推計人口=83,987(人) シミュレーション1の2040年推計人口=80,681(人) ⇒83,987(人) / 80,681(人) =104.1%	2

シミュレーションの結果を用い、年齢3区分別人口ごとに平成22年(2010年)及び平成52年(2040年)の人口増減率を算出すると、パターン1と比較して、シミュレーション1及びシミュレーション2においては「0～14歳人口」の減少率は小さくなり、シミュレーション2においては「0～4歳人口」が増加に転じることがわかります。

また、「15～64歳人口」については、パターン1とシミュレーション1では大きな差はみられないものの、パターン1とシミュレーション2では5%程度の差がみられます。

一方、「65歳以上人口」と「20～39歳女性人口」は、パターン1とシミュレーション1、2との間でそれほど大きな差はみられないことがわかります。

表 人口推計パターンごとの人口増減率の比較

		総人口	0-14歳人口	うち0-4歳人口	15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
2010年	現状値	93139	13550	4185	58682	20907	10881
2040年	パターン1	76730	8766	2858	41578	26386	7534
	シミュレーション1	80681	12213	4034	42082	26386	7496
	シミュレーション2	83987	12767	4219	44109	27111	7945
	パターン2	73437	8366	2733	39477	25594	7033
		総人口	0-14歳人口	うち0-4歳人口	15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
2040年	パターン1	-17.6%	-35.3%	-31.7%	-29.1%	26.2%	-30.8%
	シミュレーション1	-13.4%	-9.9%	-3.6%	-28.3%	26.2%	-31.1%
	シミュレーション2	-9.8%	-5.8%	0.8%	-24.8%	29.7%	-27.0%
	パターン2	-21.2%	-38.3%	-34.7%	-32.7%	22.4%	-35.4%